

農業委員会だより



特別対談～就農～ 西目高校生×(有)折林ファーム 三浦徳也取締役
2～3ページに対談内容を掲載しております。



新年のごあいさつ

由利本荘市農業委員会
会長 佐藤 系悦

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
平素より本市農業委員会の活動に対しましては、格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、長期にわたる新型コロナウイルスの感染拡大が、食料供給の混乱を引き起こし、米価の下落基調にさらに拍車をかけるなど、農業分野にも重大な影響を及ぼしておりますが、その一方で、待望の新品種「サキホコレ」のデビューなど明るい話題もございます。

こうした中、本会では今後の営農に向けた多くの不安と期待の声を受け止めながら、先般、市及び市議会に対し、農業全般に対する政策要望を行ったところであります。中でも「担い手の育成確保」が極めて重要なポイントです。

そこで、この度「就農」をテーマに、西目高等学校農業科学系列コースで学ぶ就農希望の生徒さんと(有)折林ファーム三浦徳也取締役様による特別対談を企画し、その模様を本紙で紹介することといたしました。意欲のある若者が考える現状や課題、将来ビジョンなどについて意見が交わされております。皆様におかれましては、様々な立場や観点からご覧いただき、ご支援を賜りたいと存じます。

私たち農業委員・農地最適化推進委員は、許認可業務のほか「使える農地を使えるうちに使える人へ」を合言葉に、担い手と農地のマッチング活動を引き続き進めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。併せて皆様のご多幸を祈念し、新年のあいさついたします。

特別対談 就農

自彊不息の精神を受け継いで

西目高校生×(有)折林ファーム 三浦徳也取締役

令和3年11月17日、西目高等学校農業科学系列コースで学ぶ就農希望の学生3名と(有)折林ファーム三浦取締役様で、就農をテーマとする対談を行いました。不安や法人化、経営について語っていただきました。

対談にあたり

佐藤 農業委員会では、国民や地域の貴重な資源である農地を有効利用するための活動を行っています。農業をリタイヤする人が増えるなか、新たに農業に取り組む方が少ない状況にあり、今後、耕作されない農地の増加が心配されます。一方で、農



校訓：自彊不息（自ら努めて励むこと）

地は農業の重要な経営基盤であり、将来ビジョンを描くうえで欠かせないものです。そこで本日は、皆さんと就農をテーマに話し合いたいと思います。

自己紹介

西目高等学校 3年 齋藤 楓さん 出身は西目です。小さい



西目高等学校 2年 柴田 椋さん 出身は西目です。私の家は、酪農農家を経営しており牛を飼育しています。中3で進路を考えたいと思いましたが、酪農の仕事がしたいと思いました。



西目高等学校 2年 柴田 椋さん 出身は西目です。私の家は、酪農農家を経営しており牛を飼育しています。中3で進路を考えたいと思いましたが、酪農の仕事がしたいと思いました。



西目高等学校 2年 進藤 和樹さん 出身は岩城です。父が農業を行っていただきます。それを見ていて、小学生ぐらいの時にやってみたいと思いました。



(有)折林ファーム 三浦徳也取締役 出身は、岩城です。松ヶ崎地区にある会社です。水稲、比内地鶏、たまねぎ、ほうれんそうなどをやっ

ています。従業員は、正社員10人で20代から40代です。非農家出身の私が、飛び込みでこの会社に入社し、ちょうど10年になります。



司会 農業委員 佐藤 崇 農業委員 会だよりの編集発行を担当する広報委員会の委員長です。

法人化

進藤 僕の目標は、農業経営を会社組織にすることです。社員と楽しく仕事をするにはどうしたらいいですか。

三浦 私は楽しく仕事をするには、きちんとした収入、休暇、達成感、この3つが揃わなくてはいけないと考えます。弊社では社会保障・福利厚生・有給制度を全て取り入れてやっています。また、どんな作物でいくらか稼ぐのか明確な目標を立てることが大事です。それが一緒にやる仲間への約束になりますし、モチベーションにもなります。決めないで走ってしまうと折角仲良くやりたいと集まった仲間がバラバラになってしまいます。

進藤 経営者になって1年目に立てた具体的な目標を教えてください。三浦 まず3年で過去の借金を返し、従業員の給与アップと休暇を取れる体制を確立することでした。そのためにそれぞれの部門ごとに経費を洗

い出し、削減目標を立てるとともに、売上目標も定め効率化を進めました。その結果3年目に借金を返済し、給与は1.5倍にすることが出来ました。またシフト制を導入することで従業員の休みを確立することも可能になりました。

規模拡大と経営

進藤 規模拡大を図るうえで、新しい作物に取り組むのか、それとも今までどおり米だけをやっていくのか、どちらの方がいいですか。

三浦 効率を求めるともありませんが、両方やった方がいいと思います。それは規模拡大することで販路も拡大することになるからです。販路は国内外問わず視野を広げるべきです。仲間ややる場合も偏ったやり方を選ばない方がいいと思います。また、弊社は大手企業とも取引をしていますが、複合経営により多彩な武器を持っていることが強みになっています。

柴田 機械化によって労力が軽減されますが、高額なため行政の補助金など支援が必要だと思いますが、どう考えますか。

三浦 補助金は、機械を導入する初期投資だけの支援で維持管理費は含まれません。壊れた時の高額な修繕費が大きな負担になるので、修繕計画をしっかりと立てるなど初期投資以外にも目を向ける必要があります。行政の支援を得るには、導入のメリ



真剣に聴き入る高校生

ットを説明できないといけないですし、同時に、投資するにあたっては販売先のお客様とどう売買計画を組むかも非常に大事になります。また、相手が求めるものが何かを把握しメリットを共感できるよう努力する必要があります。理想は、お客様と自分たちが共に利益をあげることです。求められていることを知ること、機械化するべきものが何かなど、優先順位が自ずと分かってくると思います。

就農者の減少

柴田 自身、家の酪農を継ぐかまだ分かりませんが、牛に関わる仕事になりたいです。でも、牛を飼う人が減っていることに不安を感じます。
三浦 私は、人が離れていく産業にこそチャンスがあると思っています。儲からない理由と人が増えない理由は同じです。なので儲けよう、仲間を増やそうと思うのであれば相手が買ってくれない理由を知らないといけません。弊社は今、色々なところに販売していましたが、最初は門前払いされたお客様にも買ってくれない理由を尋ね、改善提案をして現在にいたります。考えるのを楽しんで方がいし、考えた人にしか儲かる道はないと思います。

齋藤 今年、家の田んぼの草刈りをしたとき、周りで作業する人の高齢化を感じました。そのうち「田んぼをやってくれないか」と言われそうな気がします。規模拡大しても質は落とすたくないのですが、一番大事なことはなんですか。
三浦 お金に替わらなければ経営が成り立たないので、その計画が一番大

継承

事です。弊社では、今年の作物は計画通り売り切り、来年、再来年の契約も済んでいます。売するための営業は怠らない。だから、お客さんが求める品質・形態・タイミングを把握できています。当然、収穫できなかったら約束が守れないので、収穫・販売までの工程を逆算して計画します。
齋藤 りんごのわい化栽培をただやるのではなくて、付加価値を付けた栽培方法などいろんなことにチャレンジすることで、りんごや米を、これからも消費者が求めるものにしていきたいのですが。
三浦 そのやり方で良いと思います。みなさんのお父さんやお爺さんを知っていますか、みんな凄いなと思ってきました。チャレンジして今の道を切り開いているし、その姿を見てみなさんが農業をやりたいと思えていくところが素晴らしいです。目標の実現に向けて、家族も含めた先輩に何に悩んできたのかを聞き、たくさん話し合ってください。農業を引き継いでくれるのであれば、とても嬉しいだろうし、きつと応援してくれます。そして、皆さんの夢や計画をまず家族に大きな声で話してほしいし、それを地域の方たちに熱く語れるくらいになってほしいです。チャレンジする気持ちを持ってください。

本年もどうぞよろしく申し上げます

農業委員・農地利用最適化推進委員一同

- | | | | |
|--|---|---------------|--|
| 村三赤三齋古遠三畠成佐庄佐五高佐豊佐本大金伊板 | 吉伊庄佐佐菅伊石加佐佐佐小大小佐岡畑齋 | 富樫公一 | 佐藤系悦 |
| 上船川浦藤関藤浦山田木司藤嵐橋木島藤間門 藤垣 | 尾藤司藤藤原藤井藤木木藤松松瀧野木部藤山藤 | 【農業委員】※議席番号順 | 【会長職務代理者】 |
| 勘 善 幸良幸 敬高昭和幸辰克靖榮 清一利 | 麻 和源秀文直 三知純 幸 浪晃 五喜留美誠 | 【農地利用最適化推進委員】 | 【会長職務代理者】 |
| 保一隆信衛子夫夫実一志一彦司美已喜一初護二正明 | 美剛夫樹孝克子勲敏榮一崇順夫健雄一郎勝子誠 | ※地域毎五十音順 | 【農地利用最適化推進委員】 |
| (鳥)(鳥)(西)(西)(東)(東)(大)(大)(大)(大)(由)(由)(由)(岩)(岩)(矢)(本)(本)(本)(本) | (岩)(由)(由)(鳥)(鳥)(本)(大)(大)(大)(矢)(本)(鳥)(由)(大)(東)(本)(東)(本)(岩)(矢)(西) | | (鳥)(島)(目)(利)(内)(内)(内)(利)(利)(城)(島)(島)(莊)(莊)(莊)(莊) |
| 海海海目目利利内内内利利利城城島島莊莊莊莊 | 城利利海海莊内内内島莊海利内利莊利内利城島目 | | 順 |

由利本荘市農地賃借料情報

令和3年1月から令和3年12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準は、以下のとおりとなっています。

この情報は、農地法第52条に基づき毎年公表するものです。

(10aあたり)

農地区分	地域名	平均額	最高額	最低額	集計筆数
水田	本 荘	6,700 円	20,000 円	3,000 円	1,918
	矢 島	9,400 円	22,700 円	3,000 円	341
	岩 城	7,300 円	13,600 円	4,500 円	267
	由 利	8,200 円	13,000 円	3,000 円	601
	大 内	8,300 円	22,700 円	3,000 円	578
	東 由 利	8,300 円	18,000 円	3,000 円	425
	西 目	9,900 円	13,000 円	7,000 円	69
	鳥 海	5,700 円	10,000 円	3,000 円	448
畑 地	市 全 体	5,800 円	22,700 円	1,000 円	160

※物納契約は 9,080 円 / 60 kg

(J A 令和3年産ひとめぼれ1等米の概算払金額) 換算

※最終的には当事者間の話し合いにより賃借料を決定してください。

「農地と農業経営の意向調査」にご協力をお願いします

農業委員会では昨年末に、10アール以上の農地を経営する農家と農地所有適格法人を対象として、「農地及び農業経営等に関する調査票」を送付しました。3年後の農業経

営及び所有する農地の利用について意向をお聴きするものです。調査票が届いた方は調査項目に回答していただき、1月14日(金)までに返送してください。



私の家は、先々代から農家でわずかばかりの水稲と、果樹(りんご・なし・もも)、乳牛、繁殖牛と多様に営んできました。春から秋にかけては、アルバイトや家の手伝い、冬は出稼ぎにも何年か行きました。長男の私は、自然と家業を継ぎ、今に至っています。自家の水田は、1・5ha足らずでしたが、年々増え15haの耕作面積になりました。ほとんどが、小作です。転作は、牧草・WCS(発酵粗飼料)・アスパラガスなどを栽培しています。また、繁殖牛7頭を飼育。牧草は



頑張る 営農者

東由利地域黒淵 佐藤 幸輝 (63歳)

集落営農組合で管理し、共同で収穫します。そのほか、牧草作業の受託もしています。水稲は、10年ほど前から直播栽培を開始。乾田直播にも取り組んでいます。最近では、労力軽減のため米のフレコンやドローンによる薬剤散布を導入。来年度は、ドローンによる直播に挑戦します。面積が小さい圃場が点在している中山間地域では、規模拡大に限界があります。効率的な作業のためにも圃場整備が必要ではないかと思えます。多様な作業受託が増す中、地域の人と協力し作業をしています。楽しみながら新たな農業に挑戦していきたいです。



ドローンによる薬剤散布

(文・佐藤 幸輝)
(担当・小松 健 委員)



農業にチャレンジ!

由利地域黒沢 佐藤 恭也(46歳)

父から農業経営を受け継いで、今年で7年目になります。

現在の経営面積は、アスパラガスハウス3棟の300坪、稲作160a、大豆55aです。

また、農事組合法人アグリプロ黒沢の組合員にもなっており、稲作9ha、大豆1・6ha、キャベツ0・9ha、秋の水稲作業受託42ha、大豆作業受託17・5haを皆で分担し作業を行っています。

アスパラガスについては、継承した露地が1haありましたが、それまで勤めておりほとんど栽培経験がありませんでした。その時はJAの担当者や周りの先輩から栽培について教わりながら作業を進めておりました。

アスパラガスは、一度立茎を始めるると10日に1回のペースで防除しなくてはなりません。1年目2年目と病気になる、収量も落ちてしまい、いろいろ相談したところ、JA



で推奨しているビニールハウスの半促成栽培に取り組みことにしました。



アスパラガスの収穫作業

ハウス内なので灌水は必要ですが、雨や風の影響がなく、病気や虫害の被害も少ないため、作業効率が上がりました。ただ、嵐や雪に対してハウスを維持するのが大変で、特に昨年の冬は除雪に苦労しました。

アスパラガスは、一度定植すれば毎年植え替える必要もなく、10年20年栽培できるので、最初の圃場選定が重要になります。長く付き合える作物だと思います。JAしんせい管内には、若い栽培者も多く情報交換する機会にも恵まれています。みんなで盛り上げていきたいです。

(文・佐藤 恭也)
(担当・佐藤 順 委員)

毎日は大変。1ヶ月だと遅い。そんなあなたに

まとめて読める! 週刊紙

全国農業新聞

週刊 月4回 金曜日発行 月700円、年8,400円 (消費税込)

- 様々な問題に、じっくり鋭く、迫ります。
- 充実した経営情報と流通の現場情報を伝えます。
- 農地を守り、担い手を応援する農業委員会活動を伝えます。
- 地域を元気にする情報を提供します。

購読申込は農業委員会事務局または各総合支所産業課内庶務班まで。

生涯現役

西目地域出戸 朝岡 与助(71歳)・憲子(66歳)ご夫妻

平成23年3月の退職後に、専業農家となって10年目になります。

当時は、5町歩からの耕作面積で始まり、水稲・転作大豆のブロックローテーションなどを管理していました。

平成26年にアスパラガスの露地栽培を16aで開始。栽培3年目に、茎枯病が多発し、廃園を考えるほどの状態でした。

それでも、指導員や先輩たちのアドバイスにより消毒を徹底し、4年目5年目をなんとか持ちこたえ現在8年目になります。

平成30年には、3棟で8aのアスパラガスのハウス栽培も開始しました。現在は、娘婿が管理。作業は協力し、問題が発生するたび相談しながら対応しています。

兼業から専業になり、借地が増えはじめ乾田V溝直播機を共同で導入。乾田直播方法は、秋作業で耕起から代かきを12月上旬



乾田V溝直播機の作業

まで行い、翌年の3月下旬から播種します。そのため、作業の分散と省力化が図られ、規模拡大に適しています。

令和3年には、水田管理地が18町歩となり、稲作13町歩、転作大豆4町歩、自己保全管理1町歩、露地アスパラガス16aを家内と2人で作業しています。

春の直播、ハウス4棟で3,500枚の育苗と秋の稲刈りは、共同作業で行っています。

身近に一緒に作業出来る仲間がいて、とても心強く、これからも共に頑張っていこうと思います。

(文・朝岡 与助) (担当・齋藤 衛 委員)



遠方のリピーターが通う野菜無人販売所



矢島にブドウを植えて

矢島地域七日町 TOYOSHIMA FARM

豊島昂生(31歳)

矢島地域でワイン用ブドウを栽培しています。今年で6年目になりました。

ブドウ栽培はゼロからのスタートだったために、ここまで必ずしも順調と呼べるものではありませんでした。畑の造園から始まり、病害虫被害、資金繰り、商品企画製造、販路開拓など挙げたらキリがありません。それでも壁にぶつかる度に手助けしてくれる方が現れ、乗り越えることができています。私は運の良い人間です。

夢にむかって!

ワインを作るためにブドウを植えたのですが、最初は資金に窮しワインを作れませんでした。そこで活路を見出したのがブドウジュースでした。本当はワインも作れるほどの品質なのだと思いを入れて「ワインに恋するブドウたち」と名前をつけました。今では多くの方に購入して頂き、あきた食のチャンピオンシップ大会では奨励賞を受賞しました。ワインが完成し、販売




◀こちらから
TOYOSHIMA FARMの
ホームページをご覧ください。
<https://toyoshimafarm.com/>

近況をお手紙で知らせたり、収穫ボランティアに来てもらったりと交流することで大きな心の支えとなっています。今年の冬も募集しますの



ブドウを収穫する豊島さん

農業者年金で将来に安心を!

- 加入要件はこれだけ!
 - ・60歳未満
 - ・国民年金の第1号被保険者(保険料納付免除者除く)
 - ・年間60日以上農業に従事
- 特徴
 - ・積立方式のため加入者数や受給者数の影響を受けない安定した制度
 - ・保険料の額は千円単位で自由に設定(月額1万円~6万7千円)
 - ・終身年金(80歳前に亡くなった場合は死亡一時金あり)
 - ・保険料が全額社会保険料控除の対象
 - ・国庫補助による保険料負担軽減(一定要件あり)

お申し込み、お問い合わせはお近くのJ Aまたは農業委員会へ



で興味のある方はホームページを見てもらえたらと思います。来年は畑を広げる予定です。今までの以上の覚悟と勤労が求められます

が、目標のために頑張っていきたいと思えます。(文・豊島 昂生) (担当・畑山 留美子 委員)

編集後記

発行にあたり、お忙しい中ご寄稿くださいました皆様に感謝申し上げます。

今号は、新しい試みとして特別対談を企画いたしました。担い手の育成、確保が喫緊の課題となっている中、次世代の農業を担う若い方が育っていることを心強く感じました。

これからも本紙では、農業委員会での取り組み、情報提供など農家はじめ市民の皆様にご理解、ご協力いただけるように発信してまいりたいと思っております。

より充実した紙面づくりのため、地域の話題、ご意見、ご感想などお寄せください。(伊藤 直子 委員)

農業委員会

庁(事務局) TEL24-6258
 TEL24-6259
 TEL24-6260
 FAX24-6396

(産業課内)
 矢島庶務班 TEL55-4957
 岩城庶務班 TEL73-2014
 由利庶務班 TEL53-2114
 大内庶務班 TEL65-2804
 東由利庶務班 TEL69-2116
 西目庶務班 TEL33-4614
 鳥海庶務班 TEL57-2205

◆本 農 政 班
 農 地 班

◆各総合支所

●広報委員

- 佐藤 崇・畑山留美子
- 小松 健・佐藤 順
- 佐々木純一・伊藤 直子
- 吉尾 麻美・齋藤 衛

